

## 経営者による財政状態及び経営成績の解説と分析

### ◆ 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、緊急事態宣言の発出などにより個人消費も影響を受けるなど、総じて低調に推移いたしました。海外においても新型コロナウイルス感染症の爆発的流行に加え、米中貿易摩擦の長期化、英国のEU離脱等の影響により世界経済の先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済状況の中、当社グループは、2020年5月に公表した長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100<sup>th</sup>」の実行計画の第1ステップとしての「宝グループ中期経営計画2022」に取り組んでまいりました。

### ◆ 経営成績の状況

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高278,443百万円(前期比99.0%)、売上総利益115,594百万円(前期比106.4%)、営業利益21,595百万円(前期比136.4%)、経常利益21,929百万円(前期比134.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益10,574百万円(前期比117.7%)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### 宝酒造

国内の人口減少や高齢化の影響などからアルコールの総消費数量は減少傾向が続く中、コロナ禍による料飲店等の営業自粛に伴う外食需要の低迷と、いわゆる巣ごもり需要によりカテゴリー間で大きなばらつきがありました。このような状況のもと、宝酒造は、新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止を最優先しつつ、食品メーカーとして安全・安心な商品を安定的に供給することに努めました。また、コロナ禍による消費行動の変化に迅速に対応する生産活動、営業活動に取り組ましました。

この結果、宝酒造の売上高は、152,537百万円(前期比99.6%)となりました。売上原価は、徹底的なコスト削減に取り組んだものの、売上高に準じた減少にとどまり、92,439百万円(前期比99.6%)となり、売上総利益は、60,098百万円(前期比99.6%)となりました。販売費及び一般管理費は、コロナ禍で販売活動が制限されたことに加え諸経費の節減にも努めたため、55,218百万円(前期比98.4%)と減少し、営業利益は、4,879百万円(前期比116.9%)と増益となりました。

#### 宝酒造インターナショナルグループ

宝酒造インターナショナルグループは、日本からの酒類の輸出や海外各地で酒類の製造・販売を行う海外酒類事業と海外の日本食レストランや小売店に日本食材などを販売する海外日本食材卸事業を展開しており、新型コロナウイルス感染症の拡大による主要都市のロックダウンなどの影響を大きく受けました。グループ会社の一部では地方政府等の指示を受け、工場の操業停止や出社の抑制を実施したことに加え、主要な得意先であるレストランの営業停止などにより業績は大きく落ち込みました。

この結果、セグメント内取引消去後の宝酒造インターナショナルグループの売上高は、69,589百万円(前期比84.1%)となりました。売上原価は、在庫管理の徹底などにより48,983百万円(前期比83.2%)にとどまりましたが、売上の減少により売上総利益は、20,605百万円(前期比86.3%)となりました。販売費及び一般管理費は、人件費や物流費、販売促進費などの削減により19,562百万円(前期比96.1%)となり、営業利益は、1,043百万円(前期比29.5%)と大幅な減益となりました。

#### タカラバイオグループ

タカラバイオグループは、研究用試薬・理化学機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティを継続的に創出する創業企業を目指した取り組みを推進しました。また、新型コロナウイルスのPCR検査関連製品の安定的な供給や、ワクチンを含む再生医療等製品の製造体制整備等に積極的に取り組みました。

この結果、売上高は、46,086百万円(前期比133.3%)となりました。売上原価は、売上構成の変化や生産稼働率の向上等により原価率が低下し、14,214百万円(前期比105.6%)となりましたので、売上総利益は、31,872百万円(前期比151.0%)となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費等が増加し、17,919百万円(前期比120.8%)となり、営業利益は、13,952百万円(前期比222.4%)と大幅な増益となりました。

#### その他

その他のセグメントは、不動産賃貸事業や国内グループ会社の物流事業などです。当セグメントの売上高は、29,238百万円(前期比91.9%)となりました。売上原価は、25,558百万円(前期比92.2%)となり、売上総利益は、3,680百万円(前期比90.5%)となりました。販売費及び一般管理費は、1,876百万円(前期比91.6%)となり、営業利益は、1,803百万円(前期比89.3%)となりました。

### ◆ 財政状態の状況

#### (資産)

当連結会計年度末における流動資産は183,108百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,287百万円増加いたしました。これは主に手元資金を厚くするため有価証券を現金化したことや借入などで現金及び預金が18,973百万円増加したことによるものであります。固定資産は123,810百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,748百万円増加いたしました。これは主にTakara Bio USA, Inc.の新事業用土地・建物を取得したことなどにより有形固定資産が4,905百万円、時価の上昇などにより投資有価証券が6,203百万円それぞれ増加し、のれんの減少などにより無形固定資産が2,811百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、306,918百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,036百万円増加いたしました。

#### (負債)

当連結会計年度末における流動負債は56,269百万円となり、前連結会計年度末に比べ802百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が2,135百万円、流動負債のその他が2,933百万円それぞれ増加し、1年内償還予定の社債が5,000百万円減少したことによるものであります。固定負債は59,113百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,027百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が10,017百万円、繰延税金負債が2,252百万円それぞれ増加したことによるものであります。この結果、負債合計は、115,383百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,830百万円増加いたしました。

#### (純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は191,535百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,206百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が6,619百万円、時価の上昇によりその他有価証券評価差額金が4,245百万円それぞれ増加し、

円高により為替換算調整勘定が1,738百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、51.1%(前連結会計年度末は52.1%)となりました。

### ◆ キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益20,583百万円、減価償却費8,068百万円、未払消費税等の増加1,722百万円、その他流動負債の増加2,442百万円、法人税等の支払額4,767百万円などで27,100百万円の収入と前年同期に比べ15,355百万円の収入増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出4,316百万円、定期預金の払戻による収入5,407百万円、有価証券の売却及び償還による収入4,455百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出13,911百万円、補助金の受取額1,900百万円などにより6,738百万円の支出と前年同期に比べ3,047百万円の支出増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入10,068百万円、社債の償還による支出5,000百万円、配当金の支払額3,951百万円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出1,761百万円などにより1,506百万円の支出と前年同期に比べ10,147百万円の支出減少となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めた当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より18,319百万円増加し、62,860百万円となりました。

### ◆ 事業等のリスク

以下において、当社グループの事業、その他においてリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避および発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、記載中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。また、以下の記載事項は投資判断に関連するリスクすべてを網羅するものではありませんのでご留意ください。

#### (1) 消費者の嗜好及び需要動向の変化について

宝酒造の売上高の大部分は、日本国内のものであり、その市場は、消費者の嗜好の変化の影響を受けやすいものであります。同社は、消費者の嗜好の変化を捉えた商品の開発や、他社商品と差異化を図った独創的な商品の開発に注力しておりますが、消費者の嗜好の多様化が進み、消費動向の変化が加速しております。そのため、今後同社が消費者の嗜好や市場の変化を捉えた魅力的な商品を提供できない場合は、将来の成長性や収益性を低下させる可能性があります。また日本国内の人口減少や、少子化、高齢化の進行は酒類の需要の減少を招き、経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。同社では、消費者ニーズの変化に柔軟に対応し、差異化された高付加価値商品の開発を促進するため、技術部門と商品企画・育成部門が一体となった組織へと再編を行いました。

#### (2) 競合について

##### ① 宝酒造

日本国内の酒類・調味料市場では、市場全体の伸びが鈍るなか、商品開発やマーケティング戦略など、競合各社との競争が激化しております。競争の激化は売上の減少や利益率の低下を招き、経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。宝酒造では、独自の技術で差異化された商品の開発・育成や、ブランド力強化、流通業態の変化に対応した販売活動、そしてこれらを支える原資を得るため徹底的なコストダウンに取り組んでおります。

##### ② 宝酒造インターナショナルグループ

海外酒類事業では、ウイスキー市場においては世界中に多くの強豪メーカーが存在するほか、清酒をはじめとする和酒市場においても、海外現地生産および日本生産の輸出メーカーなど多くの競合各社との競争が激化しております。また、海外日本食材卸事業においても、海外での和酒・日本食市場がコロナ禍による一時的停滞はあったものの、トレンドとしては拡大が見込まれる一方で、同事業への参入障壁が低いことから競合の状況は激化しております。競合各社に勝る競争力を維持できない場合には、経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。宝酒造インターナショナルグループでは、宝酒造との協業により同社の技術力を生かした魅力的な商品の開発・育成やブランド力の強化に取り組んでおります。またグループシナジーを生かした共通購買などの商品調達力強化や、強みであるレストラン向けに加えて販売チャネルの多角化へも取り組んでおります。

##### ③ タカラバイオグループ

タカラバイオグループは、財務的な一定の基盤、アジア市場における確固としたプレゼンスおよび保有技術の幅広いラインアップを有する独自の産業的地位を占めておりと考へております。しかしながら、試薬や理化学機器の製造・販売には医療機器のような許可や承認を必要としないことから、特許等による障壁がない場合、これらの事業への参入は比較的容易であり、多数の競合企業が存在しております。

また、遺伝子医療分野においては、技術的進展により、安全性が高く治療成績に優れる治療薬が開発され、海外で製造販売承認が得られはじめています。当分野の市場規模の拡大を背景として、欧米のバイオベンチャーやメガファーマ等、多数の企業が遺伝子治療の研究開発に取り組んでおります。

このような環境の中、同グループは、独自もしくは大学等の外部団体と協力して、技術や製品を開発しておりますが、他社が類似の製品や技術分野で先行した場合、当社グループの製品開発や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。このようなリスクを踏まえ、同グループは開発した技術や製品を可能な限り知的財産により保護することにより、独占化あるいは差異化をはかるとともに、コストダウンの推進および製造体制の強化により、価格競争力の維持を図ってまいります。

#### (3) 製造に関する依存について

##### ① 宝酒造

宝酒造の酒類製品の大部分は、伏見工場(京都市伏見区)および松戸工場(千葉県松戸市)で製造しております。これらの地域において大規模な地震やその他の操業を中断する事象が発生した場合、同社の商品の生産、供給能力が著しく低下し、経営成



## 経営者による財政状態及び経営成績の解説と分析

續および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。同社では全社及び拠点毎の事業継続計画(BCP)を整備し、安定した生産・供給に努めております。また楠工場(三重県四日市市)も含めた相互応援体制による、フレキシブルな生産体制を構築しております。

### ②タカラバイオグループ

タカラバイオグループの主力製品である研究用試薬は、その大半を中国の子会社である宝生物工程(大連)有限公司で製造しており、当該子会社の収益動向の変化や、何らかの理由による事業活動の停止等により、事業戦略や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。このようなリスクを踏まえ、効率性向上とリスク低減のバランスを考慮しつつ、国内を含めたグローバルで多極的な製造・研究開発体制を整備しております。

### (4) 原材料価格の変動について

宝酒造の原材料の調達については、調達先の国又は地域の天候や経済状況の影響を間接的に受ける可能性があります。焼酎等の原料である粗留アルコールは主に南米やアジア地域の、また清酒等の原料米は主に日本の天候、原料相場の影響を受けます。原材料の調達価格の高騰は製造コストの上昇に繋がり、また市場の状況等により販売価格に転嫁できない場合には、経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。宝酒造では原材料の調達先の多様化により安定的かつ有利な条件での調達を図り、一方で技術革新による原価の低減に取り組んでおります。

### (5) 特有の法的規制について

#### ①宝酒造

宝酒造は、日本国内において酒税の賦課徴収、酒類の製造免許および販売免許等について定める酒税法の規制を受けております。同社は酒税法に基づき、販売免許のほか、種類別・製造場ごとに所轄税務署長の製造免許を取得しております。今後の事業展開においても酒税法の規制を受けるほか、酒税の税率の変更によって酒類の販売価格、販売動向等に影響を受ける可能性があります。同社は酒税法などの法令遵守はもとより、酒税法の改正等に機動的に対応し、必要に応じて商品戦略の見直しを図るなどの対策を実行いたします。

#### ②宝酒造インターナショナルグループ

宝酒造インターナショナルグループでは、事業を展開する各国において、事業・投資の許可、国家安全保障又はその他の理由による輸出制限、関税をはじめとするその他の輸出入規制等、様々な政府規制の適用を受けております。また、通商、独占禁止、特許、消費者、租税、為替管制、運輸、人権、環境・リサイクル関連の法規制の適用も受けております。これらの規制を遵守できなかった場合、同グループの活動が制限される可能性があります。また遵守することによるコストの増加につながる可能性があります。同グループでは法令遵守のもと、これらの影響を軽減する対策を実施いたします。

#### ③タカラバイオグループ

タカラバイオグループの研究開発を進めるにあたっては、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律や遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に

関する法律(以下、「カルタヘナ法」という。)等の関連法規の規制を受けており、同グループは当該法規制を遵守していく方針であります。また、同グループが開発中の遺伝子治療薬は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、再生医療等の安全性の確保等に関する法律、カルタヘナ法等関連法規の規制を受けており、これらの関連法規は、医薬品、再生医療等製品、医薬部外品、特定細胞加工物、化粧品および医療機器の品質、有効性及び安全性の確保を目的としており、商業活動のためには所轄官公庁の承認または許可が必要になります。同グループが研究開発を進めている個々のプロジェクトについて、かかる許認可が得られなかった場合には、同グループの事業戦略に影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 飲酒に対する社会的規制について

酒類は人々の生活に豊かさや潤いを与えるものである一方で、不適切な飲酒はアルコール健康障害の原因となり、アルコール健康障害は、本人の健康の問題であるのみならず、その家族への深刻な影響や重大な社会問題を生じさせる危険性が高いことが指摘されております。これらのアルコールに関連する諸問題が社会的に一層深刻となった場合には、酒類の製造、販売に何らかの影響、規制が及ぶ可能性があります。宝酒造および宝酒造インターナショナルグループでは、これらの指摘を認識したうえで、酒類の製造、販売を行う企業として、人々の健康を維持増進し、社会的責任を果たす観点から、当社グループが定めた「責任ある飲酒に関する基本方針」に基づき、適正飲酒の啓発をはじめ様々な取り組みを行っております。

### (7) 研究開発活動について

バイオテクノロジーに関連する産業は、遺伝子治療等の再生医療等製品分野、基礎研究や創薬等を目的とした大学、公的研究機関や企業、検査会社を直接のターゲット市場とする研究支援分野、その他、環境・エネルギー・食品・情報分野まで多岐に渡ります。このような状況の中、タカラバイオグループにおいて競争優位性を維持していくためにも、広範囲にわたる研究開発活動は非常に重要であると考えております。しかしながら、研究開発活動は計画どおりに進む保証はなく、特に遺伝子医療分野における臨床開発は長期間を要するため、研究開発活動の遅延により、同グループの事業戦略や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、バイオテクノロジー業界を取り巻く経営環境の変化は激しく、同グループの事業環境は新たな技術革新や新規参入者等により大きな影響を受ける可能性があることから、現在推進している研究開発活動から必ずしも期待した効果を得られる保証はなく、計画する収益を獲得出来ない可能性があります。

### (8) 知的財産権について

タカラバイオグループは、研究開発の成否がそのまま事業開発の成否につながるバイオテクノロジー関連産業において、競合他社を排除するため、自社の技術の特許で保護しております。また同グループは研究開発を進めていくにあたって、特許出願・権利化を第一に考え対応していく方針であります。しかしながら、出

願した特許がすべて登録されるとは限らず、また、登録特許が無効となる、消滅する等した場合には、同グループの事業戦略や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、同グループは今後の事業展開の中で、必要な他者特許については取得またはライセンスを受ける方針であります。このために多大な費用が発生する可能性があります。また、必要な他者特許が生じ、そのライセンスが受けられなかった場合には、同グループの事業戦略や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (9) 固定資産の減損処理について

当社グループでは、のれんを含む多額の有形・無形固定資産を保有しておりますが、経営環境の急変等により固定資産の減損に係る会計基準に基づき減損損失を計上した場合には、経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは一定の投資に際しては取締役会等の承認を得ることとしており、投資効果の判定にはNPV法に基づくハードルを設定し、進捗を毎期検証しております。また、減損の兆候を早期に把握する体制を構築しております。

### (10) 為替レートの変動について

当社グループが事業を展開する日本国外の各地域における売上高、費用、資産を含む現地通貨建ての項目は、連結財務諸表の作成のために円換算されております。これらの項目は、換算時の為替レートにより財務諸表計上額が影響を受ける可能性があります。また、輸入による商品仕入れ、原材料の調達あるいは製品輸出を外貨建てで行う場合は為替レートの変動により経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。当社グループは、為替変動リスクに備えるため通貨オプション、為替予約などのヘッジ取引を行い、為替レートの中・短期的な変動による影響を最小限にするよう努めております。また円安、円高どちらに進行しても損益が相殺しあうような外貨建て取引のポジションを有しております。

### (11) 製造物責任について

当社グループが開発、製造する全ての商品について製造物責任賠償のリスクが内在しています。特に、酒類、食品、医薬品、医療機器、再生医療等製品、臨床試験に使用される治験薬などについては、製造、販売、臨床試験において瑕疵が発見され、健康障害等を引き起こしたりした場合には製造物責任を負う可能性があります。また、大規模な製品回収や製造物責任賠償は、多額のコストが発生するうえに、当社グループの評価に重大な影響を与え、当社グループの経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。これらのリスクに備えるため、製造物責任賠償保険に加入しておりますが、この保険が最終的に負担する賠償額を十分にカバーできないという保証はありません。当社グループでは、法令遵守に加え徹底した品質管理とリスク管理体制の構築に取り組んでおります。なお、宝酒造で製造・販売する一部製品の自主回収を実施し、2021年5月20日に開示しております。

### (12) 情報・システムの管理について

当社グループは、事業に関連して多数のITシステムを活用し、個人情報を含む膨大な情報を管理しております。これら社内情

報の紛失、漏洩、改ざんなどが起こった場合は業務への支障、対応コストに加えレピュテーションリスクが生じる可能性があります。またシステム不具合あるいはサイバーテロにより、一定期間業務の遂行が不可能になった場合は事業活動の継続に影響を及ぼす可能性があります。デジタルトランスフォーメーションの進展や、在宅勤務の拡大によりこれらのリスクは拡大しております。当社グループでは「情報管理規程」「ITセキュリティポリシー」を定め、リスクへの対応を強化しております。

### (13) 訴訟について

当社グループでは、事業の遂行にあたり各種法令および規制等に違反しないようコンプライアンス活動を強化するなど最善の努力をしております。しかしながら、国内外において事業活動を遂行していくうえで、当社グループおよびその従業員が法令等に対する違反の有無にかかわらず、製造物責任法や知的財産権、発明対価請求などの問題において訴訟提起される可能性を抱えています。万が一当社グループが訴訟を提起された場合、また不利な判決結果が生じた場合は、当社グループの経営成績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは法令遵守を徹底するとともに、重要な契約の締結に際しては法務部門、外部専門家の助言、チェックを受ける体制を構築しております。

### (14) 自然災害について

暴風、地震、落雷、洪水等の自然災害、火災等の事故災害や感染症の世界的流行(パンデミック)が発生した場合、災害による物的・人的被害により、当社グループの営業活動に支障が生じる可能性があります。このようなリスクを踏まえ、当社グループでは、発生時の損害の拡大を最小限におさえるべく、点検・訓練の実施、連絡体制・事業継続計画(BCP)の整備に努めております。

### (15) 新型コロナウイルス感染症による影響の長期化について

2022年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響が一定程度続くことを前提としておりますが、これが想定以上に長期化した場合には、外食産業が主要な取引先である海外日本食材卸事業を中心に大きな影響が出る可能性があります。当社グループでは、複数の自立した事業をグローバルに展開している当社グループの強みを生かし、新型コロナウイルス感染症の影響下においても利益計画を達成できるよう、徹底的なコストカットや販売チャネルの多角化などに取り組んでおります。また緊急時の事業継続のため十分な手元資金を確保するとともに、各事業拠点での感染防止対策の強化と在宅勤務制度の整備・推進に取り組んでおります。当社では、当社社長を委員長とする「リスク・コンプライアンス委員会」が当社グループのリスク管理全体を総括し、同委員会の監督のもと、各担当部門において「法・社会倫理」「商品の安全と品質」「安全衛生」その他当社グループを取り巻くリスクを防止・軽減する活動に取り組んでおります。

## 11ヵ年連結財務サマリー

(2021年3月期)

単位:百万円\*2

単位:百万円\*2

期間項目	2021年3月期	2020年3月期	2019年3月期	2018年3月期	2017年3月期	2016年3月期	2015年3月期	2014年3月期	2013年3月期	2012年3月期	2011年3月期
売上高*1	¥278,443	¥281,191	¥277,443	¥268,142	¥234,193	¥225,364	¥219,490	¥209,568	¥200,989	¥198,690	¥189,769
宝酒造	152,537	153,141	152,457	149,839	149,452	145,492	147,884	149,633			
宝酒造インターナショナルグループ	69,589	82,765	77,834	70,717	37,540	30,490	26,233	16,481			
タカラバイオグループ	46,086	34,565	35,841	32,312	29,375	29,729	25,969	23,905			
その他(国内グループ会社)	29,238	31,801	32,742	36,412	39,017	41,050	42,980	43,123			
調整額	(19,007)	(21,082)	(21,431)	(21,140)	(21,193)	(21,398)	(23,577)	(23,575)			
売上原価	162,849	172,574	168,694	163,529	140,182	135,868	134,390	129,447	123,630	121,462	115,480
売上総利益	115,594	108,617	108,749	104,612	94,010	89,495	85,099	80,121	77,359	77,228	74,289
販売費及び一般管理費	93,999	92,781	90,945	88,999	80,458	77,815	74,003	70,631	68,225	67,963	65,953
営業利益(損失)*1	21,595	15,836	17,804	15,612	13,551	11,680	11,096	9,490	9,133	9,264	8,335
宝酒造	4,879	4,175	5,948	5,569	5,071	4,082	4,428	4,513			
宝酒造インターナショナルグループ	1,043	3,532	4,532	4,393	3,182	2,752	2,270	907			
タカラバイオグループ	13,952	6,274	5,463	3,555	3,202	2,667	2,302	1,954			
その他(国内グループ会社)	1,803	2,018	1,954	2,318	2,167	2,058	1,654	1,581			
調整額	(84)	(164)	(95)	(224)	(72)	120	440	533			
税金等調整前当期純利益	20,583	15,643	17,658	18,903	14,520	12,548	11,453	18,642	9,256	8,590	7,505
親会社株主に帰属する当期純利益	10,574	8,980	10,411	11,029	8,480	7,055	5,706	10,280	4,687	3,995	3,788
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	9,298	8,874	7,827	7,702	6,213	6,180	5,537	4,997	4,973	5,209	5,384
資本的支出	13,775	14,195	10,671	6,414	6,658	6,003	9,533	8,967	5,282	5,330	3,735
研究開発費	5,914	4,259	4,708	5,063	4,550	4,608	3,754	3,376	3,090	3,027	3,076
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,100	11,744	13,508	16,265	12,826	10,373	9,545	7,233	7,967	9,013	9,462
投資活動によるキャッシュ・フロー	(6,738)	(3,690)	(9,213)	(19,916)	16,200	(10,864)	(10,253)	(12,254)	(3,672)	(4,779)	(11,323)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(1,506)	(11,653)	(4,243)	(5,570)	(2,828)	(9,482)	6,819	2,562	1,229	(3,265)	(3,199)
フリー・キャッシュ・フロー	20,362	8,054	4,295	(3,650)	29,026	(490)	(708)	(5,021)	4,295	4,233	(1,861)
期末項目											
総資産	¥306,918	¥283,882	¥287,106	¥287,059	¥274,368	¥253,253	¥264,438	¥238,577	¥207,586	¥197,437	¥192,448
有利子負債	50,674	47,474	47,427	47,982	47,852	42,837	48,324	38,909	43,098	38,493	38,881
純資産	191,535	181,329	179,795	176,217	165,920	156,148	158,404	146,422	114,318	107,659	106,895
自己資本	156,884	147,762	148,197	145,111	135,043	130,386	131,923	121,431	100,040	94,783	94,308
1株当たり(単位:円)											
1株当たり当期純利益	¥ 53.48	¥ 45.11	¥ 52.15	¥ 54.97	¥ 42.15	¥ 35.06	¥ 28.36	¥ 50.83	¥ 23.01	¥ 19.32	¥ 18.21
1株当たり純資産	793.53	747.39	742.36	726.90	671.11	647.97	655.60	603.44	493.14	461.41	454.21
年間配当金	21.00	20.00	18.00	16.00	13.00	12.00	10.00	11.00	9.00	9.00	8.50
指標(単位:%)											
総資産当期純利益率	3.6%	3.1%	3.6%	3.9%	3.2%	2.7%	2.3%	4.6%	2.3%	2.0%	2.0%
自己資本当期純利益率	6.9	6.1	7.1	7.9	6.4	5.4	4.5	9.3	4.8	4.2	4.0
自己資本比率	51.1	52.1	51.6	51.0	49.2	51.5	49.9	50.9	48.2	48.0	49.0
D/Eレシオ	32.3	31.2	32.0	33.1	35.4	32.9	36.6	32.0	43.1	40.6	41.2
配当性向	39.3	44.3	34.5	29.1	30.8	34.2	35.3	21.6	39.1	46.6	46.7

\*1 2018年3月期より事業セグメントの変更を行っています。2014年3月期から2017年3月期の売上高および営業利益(損失)については、変更後の事業セグメントの区分に基づき算出しています。

\*2 百万円未満は切り捨てにより算出しています。

## 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

宝ホールディングス株式会社及び連結子会社  
2021年3月31日

単位:百万円

	2021年3月期	2020年3月期
<b>資産の部</b>		
流動資産:		
現金及び預金	¥ 66,238	¥ 47,265
受取手形及び売掛金	55,074	54,670
電子記録債権	6,880	6,347
有価証券	1,145	7,352
商品及び製品	41,115	42,295
仕掛品	1,924	1,801
原材料及び貯蔵品	6,084	4,879
その他	5,161	4,515
貸倒引当金	(516)	(307)
流動資産合計	183,108	168,820
固定資産:		
有形固定資産		
建物及び構築物	61,363	59,337
減価償却累計額	(35,403)	(35,189)
建物及び構築物(純額)	25,959	24,148
機械装置及び運搬具	86,657	86,331
減価償却累計額	(71,247)	(69,661)
機械装置及び運搬具(純額)	15,410	16,670
土地	20,640	18,337
リース資産	1,680	1,833
減価償却累計額	(651)	(586)
リース資産(純額)	1,029	1,247
建設仮勘定	4,027	1,531
その他	21,823	21,262
減価償却累計額	(14,149)	(13,362)
その他(純額)	7,673	7,900
有形固定資産合計	74,740	69,835
無形固定資産:		
のれん	10,142	11,750
その他	5,746	6,950
無形固定資産合計	15,889	18,700
投資その他の資産:		
投資有価証券	27,924	21,720
退職給付に係る資産	894	651
繰延税金資産	2,088	1,807
その他	2,341	2,414
貸倒引当金	(69)	(69)
投資その他の資産合計	33,180	26,525
固定資産合計	123,810	115,061
資産合計	¥306,918	¥283,882

単位:百万円

	2021年3月期	2020年3月期
<b>負債の部</b>		
流動負債:		
支払手形及び買掛金	¥ 16,481	¥ 16,440
短期借入金	5,166	4,787
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	6,890	7,690
未払費用	6,455	5,511
未払法人税等	4,021	1,886
賞与引当金	2,727	2,513
販売促進引当金	2,049	2,094
その他	12,476	9,543
流動負債合計	56,269	55,466
固定負債:		
社債	20,000	20,000
長期借入金	15,465	5,448
リース債務	3,122	3,538
繰延税金負債	3,831	1,578
退職給付に係る負債	9,274	9,065
長期預り金	5,136	5,363
その他	2,283	2,092
固定負債合計	59,113	47,086
負債合計	115,383	102,553
純資産の部		
株主資本:		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,292	2,454
利益剰余金	135,184	128,564
自己株式	(1,682)	(1,682)
株主資本合計	149,020	142,563
その他の包括利益累計額:		
その他有価証券評価差額金	11,370	7,125
繰延ヘッジ損益	193	84
為替換算調整勘定	(2,840)	(1,102)
退職給付に係る調整累計額	(859)	(908)
その他の包括利益累計額合計	7,863	5,199
非支配株主持分	34,650	33,566
純資産合計	191,535	181,329
負債純資産合計	¥306,918	¥283,882



## 連結財務諸表

## 連結損益計算書

宝ホールディングス株式会社及び連結子会社  
2021年3月期

単位:百万円

	2021年3月期	2020年3月期
売上高	¥278,443	¥281,191
売上原価	162,849	172,574
売上総利益	115,594	108,617
販売費及び一般管理費	93,999	92,781
営業利益	21,595	15,836
営業外収益:		
受取利息	179	309
受取配当金	528	601
不動産賃貸料	137	122
その他	466	424
営業外収益合計	1,311	1,458
営業外費用:		
支払利息	344	403
棚卸資産廃棄損	127	43
その他	505	577
営業外費用合計	976	1,025
経常利益	21,929	16,269
特別利益:		
投資有価証券売却益	2	1,130
国庫補助金	517	—
その他	9	342
特別利益合計	529	1,473
特別損失:		
固定資産除売却損	295	319
固定資産圧縮損	517	—
減損損失	432	880
事業整理損	458	—
環境対策引当金繰入額	—	415
その他	171	484
特別損失合計	1,875	2,099
税金等調整前当期純利益	20,583	15,643
法人税、住民税及び事業税	6,303	5,077
法人税等調整額	23	(125)
法人税等合計	6,326	4,952
当期純利益	14,256	10,691
非支配株主に帰属する当期純利益	3,682	1,710
親会社株主に帰属する当期純利益	¥ 10,574	¥ 8,980

## 連結キャッシュ・フロー計算書

宝ホールディングス株式会社及び連結子会社  
2021年3月期

単位:百万円

	2021年3月期	2020年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー:		
税金等調整前当期純利益	¥ 20,583	¥ 15,643
減価償却費	8,068	7,626
減損損失	432	880
事業整理損	458	—
のれん償却額	865	847
環境対策引当金の増減額(カッコは減少)	(412)	408
受取利息及び受取配当金	(707)	(911)
支払利息	344	403
固定資産除売却損益(カッコは益)	291	268
売上債権の増減額(カッコは増加)	(1,162)	(1,291)
棚卸資産の増減額(カッコは増加)	(691)	(3,159)
仕入債務の増減額(カッコは減少)	40	(340)
未払消費税の増減額(カッコは減少)	(799)	(2,534)
未払消費税等の増減額(カッコは減少)	1,722	(994)
その他の流動負債の増減額(カッコは減少)	2,442	(595)
その他	(128)	(65)
小計	31,347	16,188
利息及び配当金の受取額	703	917
利息の支払額	(364)	(405)
法人税等の支払額	(4,767)	(4,955)
補助金の受取額	181	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,100	11,744
投資活動によるキャッシュ・フロー:		
定期預金の預入による支出	(4,316)	(6,785)
定期預金の払戻による収入	5,407	10,564
有価証券の取得による支出	—	(8,478)
有価証券の売却及び償還による収入	4,455	11,507
有形及び無形固定資産の取得による支出	(13,911)	(12,121)
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	350
補助金の受取額	1,900	—
その他	(273)	1,270
投資活動によるキャッシュ・フロー	(6,738)	(3,690)
財務活動によるキャッシュ・フロー:		
長期借入れによる収入	10,068	100
長期借入金の返済による支出	(60)	(5,160)
社債の償還による支出	(5,000)	—
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	5,000	—
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	(5,000)	—
配当金の支払額	(3,951)	(3,589)
リース債務の返済による支出	(689)	(641)
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	(1,761)	—
その他	(112)	(2,362)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(1,506)	(11,653)
現金及び現金同等物に係る換算差額	(536)	(439)
現金及び現金同等物の増減額(カッコは減少)	18,319	(4,039)
現金及び現金同等物の期首残高	44,541	48,580
現金及び現金同等物の期末残高	¥ 62,860	¥ 44,541

## 主要子会社データ

(2021年3月31日現在)

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

会社名	所在地	資本金	議決権の所有割合	主な事業内容
<b>宝酒造(国内事業)</b>				
宝酒造株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20	1,000百万円	100.0%	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売
<b>宝酒造インターナショナルグループ(海外事業)</b>				
宝酒造インターナショナル株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20	10百万円	100.0%	グループ会社管理、酒類・調味料の輸出販売等
東京共同貿易株式会社(日本)	〒110-0016 東京都台東区台東4丁目26番4号	60百万円	(51.0%)	食料品、酒類、雑貨品等の輸出輸入販売
Takara Sake USA Inc.(アメリカ)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A.	7,000千米ドル	(100.0%)	酒類の製造・販売、輸出および輸入販売
Age International, Inc.(アメリカ)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A.	250千米ドル	(100.0%)	パーボンウイスキーの販売
Mutual Trading Co., Inc.(アメリカ)	4200 Shirley Avenue, El Monte, CA 91731	2,703千米ドル	(67.1%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
The Tomatin Distillery Co. Ltd(イギリス)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K.	3,297千ポンド	(94.2%)	スコッチウイスキーの製造・販売
Tazaki Foods Ltd.(イギリス)	12 Innova Way, Enfield, Middlesex EN3 7FL, U.K.	357千ポンド	(100.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
FOODEX S.A.S.(フランス)	4, impasse des Carrières 75016 Paris, France	250千ユーロ	(100.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
Cominport Distribución S.L.(スペイン)	Avenida Marconi nave 1 - P.A.E. Neysa Sur - 28021, Madrid, Spain	143千ユーロ	(100.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
Keta Foods, Lda.(ポルトガル)	Quinta do Olival das Minas, Quinta do Duque No.26, 2625-573 Vialonga, Portugal	15千ユーロ	(100.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
Nippon Food Supplies Company Pty Ltd(オーストラリア)	Unit 8/63 Campbell Road, Alexandria NSW 2015, Australia	17百万豪ドル	(51.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
宝酒造食品有限公司(中国) (英文名:Takara Shuzo Foods Co., Ltd.)	No.31 Nanyuan West St. Fengtai District Beijing, China 100076	130,000千元	(92.0%)	酒類の製造・販売、輸出および輸入販売
上海宝酒造貿易有限公司(中国) (英文名:Shanghai Takara Shuzo International Trading Co., Ltd.)	Room303, Building2, No505, Zhong Shan Nan Road, Shanghai, China 200010	4,896千元	(100.0%)	酒類・食品の輸出および輸入販売
Takara Shuzo Asia Pacific Pte. Ltd. (シンガポール)	81 Anson Rd., Suite 8.08, Singapore 079908	500千SGドル*	(100.0%)	宝酒造製品の市場開発および販売促進

\* シンガポールドル

### タカラバイオグループ(バイオ事業)

タカラバイオ株式会社	〒525-0058 滋賀県草津市野路東7-4-38	14,965百万円	60.9%	研究用試薬・理化学機器などの製造・販売、受託サービス、遺伝子治療の商業化
Takara Bio USA, Inc.(アメリカ)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千米ドル	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の開発・製造・販売
Takara Bio Europe S.A.S.(フランス)	34 rue de la Croix de Fer 78100 Saint-Germain-en-Laye, France	891千ユーロ	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売
Takara Bio Europe AB(スウェーデン)	Arvid Wallgrens Backe 20, 41346, Göteborg, Sweden	2,222千SEK*	(100.0%)	研究用試薬の製造・販売、受託サービス
DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.(インド)	A-5 Mohan Co-op Industrial Estate, Mathura Road, New Delhi, 110044, India	110百万ルピー	(51.0%)	研究用試薬の製造・販売
宝生物工程(大連)有限公司(中国)	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian 116600 China	2,350百万円	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・グループ内販売、受託サービス
宝日医生物技術(北京)有限公司(中国)	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing 102206 China	1,330百万円	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売
Takara Korea Biomedical Inc.(韓国)	601, New T Castle, 108, Gasan Digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea.	3,860百万ウォン	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売

\* スウェーデンクローナ

### その他(国内グループ会社)

大平印刷株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町1	90百万円	100.0%	印刷業
川東商事株式会社	〒600-8088 京都府京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20	30百万円	100.0%	不動産賃貸
株式会社トータルマネジメントビジネス	〒600-8088 京都府京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20	20百万円	100.0%	マーケティングに関する調査、販促企画、人材派遣事業
タカラ物流システム株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住浜55-13	50百万円	100.0%	運送業、倉庫業、自動車整備業、損害保険代理業、旅行業等
タカラ容器株式会社	〒600-8088 京都府京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20	30百万円	100.0%	容器卸売業
タカラ物産株式会社	〒612-8081 京都府京都市伏見区新町5丁目487	10百万円	100.0%	食料品及び飼料販売
株式会社ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂3-2-12	80百万円	100.0%	ワイン輸入販売

## 投資家情報

(2021年3月31日現在)

商号	宝ホールディングス株式会社	設立	1925年9月6日
事業内容	持株会社	資本金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20番地	代表者	代表取締役社長 木村 睦
電話	075-241-5130	ホームページアドレス	www.takara.co.jp

### 株主メモ

<b>発行株式</b>	発行可能株式総数 870,000,000株 発行済株式総数 199,699,743株	<b>大株主(上位10名)</b>
<b>株主数</b>	35,841名	株主名
<b>上場取引所</b>	東証1部	持株数(千株)
<b>証券コード</b>	2531	持株比率(%)
<b>株主名簿管理人</b>	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)
<b>株主名簿管理人 事務連絡先</b>	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-288-324(フリーダイヤル)	株式会社日本カストディ銀行(信託口)
<b>株主総会</b>	定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されています。その他、必要のある場合には、あらかじめ公告して基準日を定めた上で、臨時株主総会が開かれる場合があります。	株式会社みずほ銀行
<b>独立監査人</b>	有限責任監査法人トーマツ	農林中央金庫
<b>所有者別株式分布状況</b>	金融機関 53.48%	明治安田生命保険相互会社
	個人その他 16.40%	株式会社京都銀行
	外国法人等 11.36%	国分グループ本社株式会社
	その他の国内法人 15.75%	宝グループ社員持株会
		日本アルコール販売株式会社
		三井住友信託銀行株式会社

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	30,095	15.22
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	16,422	8.31
株式会社みずほ銀行	9,738	4.93
農林中央金庫	9,500	4.81
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.72
株式会社京都銀行	5,000	2.53
国分グループ本社株式会社	3,489	1.77
宝グループ社員持株会	3,204	1.62
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.52
三井住友信託銀行株式会社	2,753	1.39

(注) 1. 持株数の千株未満は切り捨てております。  
2. 持株比率は、自己株式(1,995千株)を控除して計算しております。  
3. 三井住友信託銀行株式会社の持株数には、信託業務に係る株式数は含んでおりません。

### 格付

格付機関	長期格付	短期格付
格付投資情報センター(R&I)	A / 安定的	a-1
日本格付研究所(JCR)	A / 安定的	J-1

### 株価の推移(円)

